

共利群生の もりをめざして



中門東側にシャクナゲの植樹を致しました。

献木
植樹祭



高野山の豊かな森を後世に

平成二十七年は、高野山開創千二百年の吉祥にあたり、大法会が厳修されました。全国から登嶺された参拝者は、春の五十日間だけでも六十万人を数えました。

高野山にはじめて訪れた方々から、他では感じることができない「莊嚴」「静寂」「神秘」的な環境を賛嘆する言葉をよく耳にします。また、その感覚は千二百年前にお大師さまが感じられた

感覚そのものであり、山奥にある高野山が信仰の求心力を維持し続けてきた理由がここにあります。そして、類い希なる聖地の信仰環境の中心にはいつも幽玄な高野山の森林があります。

金剛峯寺山林部は、百年後も千年後も多くの人々の心に語りかける森厳な環境を連綿と伝えるため、全力で山林の維持管理に邁進いたします。

今後とも多くの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



参与会

「真然廟周辺整備が完了」

お大師さまの入定後その志を引き継ぎ伽藍を築き上げ、高野山の基礎を作り上げた真然大徳は高野山第二世として金剛峯寺北側に檜皮葺きの御廟にお祀りされております。この真然廟周辺の山林を参与会森林整備活動として整備させて頂きました。

山林部は、「平成の高野聖」と呼ばれる参与会員の方々とともに大師信仰と祖山尊厳護持に努めてまいります。



北海道参与の安田容昌、祥子様より寄進された莊嚴

前回ご紹介いたしました「八葉のしきみ」について高野山真言宗住職よりご連絡があり枝先に八枚の葉が集まつたしきみが実際に届けられました。

一般的なものと比較すると葉が少しスリムで、本来毒性があるとされる品種とは違うようで、お大師さまが中国から漢方として持ち帰ったといわれ、葉を揉むとしきみ特有の薰りがしました。

この品種はどうしきみ「八角」で香辛料に使用され果実はインフルエンザの治療薬として有名なタミフルの製造原料となるそうです。

日本に自生するしきみは植物全体が有毒で更に果実は猛毒とされ植物で唯一劇物として指定されています。

同じしきみでも成分は真逆で度々果実の誤飲による事故があるそうです。

最後にこの住職からこの品種を「八葉のしきみ」として山林部で保護育成してほしいとお申し出をいただき苗木も提供頂けることになりとんとん拍子に話が進んで実際驚いています。

古来から研究され、解明されていないことや時代の風化によって忘れ去られたことなどまだまだ私たちの知らないことがたくさんあると実感いたしました。



本当にあつた八葉のしきみ

高野山銘木の跡をたずねる

伝統を伝える高野の手仕事 「うるし塗り」

高野山の宿坊で振舞われる精進料理は漆塗りの御膳に朱色の漆椀というイメージをお持ちの方も少なくないと思います。

また宿坊の本堂や客殿の至る所にも漆で塗られた柱や建具を見る事ができます。さらに高野山には日常で使用する漆器のほか、靈宝館所蔵の

【国宝】澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃

【重文】紙胎花鳥蒔絵念珠箱

のような漆工芸品も多数現存しております。

このように、今でも高野山では「漆」というものがとても身近に感じられる場所ではないでしょうか?

「うるし」とは漆科植物内うるし属植物の幹に傷をつけた際に滲み出る樹液の総称で常温で硬化し接着・塗膜形成剤となるものを言います。

ひと言で「うるし」といっても漆科の植物は世界各地に植生し約八十属六百種が熱帯・亜熱帯・温帯地域に分布しています。

招集され職人の情報交換の場となっていました。

さらに真言宗總本山ともなれば山内で使われる仏具・仏器をはじめ生活什器も夥しい数にのぼりましたが、宝永七年に刊行された「大和本草」では吉野川及び紀ノ川周辺では盛んに漆が栽培され、高野山周辺集落や根来寺周辺(根来塗り)、海南(黒江)、吉野、熊野、京都、堺等で製作された漆器や仏具を使用していたと考えられています。



高野山蛇柳

【国宝】澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 1合

平安時代 金剛峯寺
昭和26年6月9日 国宝指定
縦:30.5cm 横:39.9cm 高:30.0cm



たとえば、漆の樹液を採取する「ウルシ」をはじめ、蠍燭の材料確保の為の重要な戦略物資でもありました。船や籠など、当時ありとあらゆる物に利用され、特に蠍燭の材料確保の為の重要な戦略物資でもありました。その為、高野山に残る漆工芸品の中でも高野山内で製作されたものは数少なく、日本各地で製作され信者さまより献上寄進されたものが多くを占めます。また建物の再建・修繕等の際には都度、日本全国より職人が招集され職人の情報交換の場となっていました。

その貴重な写真が文化財保存会に保管されています。

一の橋から奥之院参道をはいった隠戸川沿いにあったとされ、古絵図にも「三鉢の松」同様必ず記されているこの柳は現在確認する事ができませんが、大蛇がこのあたりにすんで人々に害したので弘法大師が加地力をもつて呪縛し封じ込められたとされそのためから大蛇しながらの大柳が現れたという伝説が残っています。

昭和中期にはまだ奇形な柳の枯木があつたと記されています。

蛇柳

ちょっと
ええ話

編集後記

千利休のお茶の言葉にこんな言葉があります。

「炭は湯の沸くように置き、刻限は早めに、降らずとも雨の用意」釜をかけてしまえば、火の起こり具合が悪くても手直しはできません。お客様が退席なるまでのあいだ、良い湯加減であるようにするためには、最初から炭の位置もかなり考えて配置しなくてはなりません。ちょうどよいときに、よい湯加減にするために、火をおこし、よく考え炭を配置し上手に炭をついでゆく次に時間を大切にし、常に余裕を持つて事にあたる、そうするようにして、相手の時間も尊重できるという意味です。雨が降る」とは予測ができる場合とできない場合がありますが、いついかなるときでも、備えを怠らなければ、対処ができる。何事にも常に用意を怠らぬことを、という意味です。用意さえ整つていれば、思いがけないことが起きたとしても、余裕を持って適切に対応できますよね。一期一会のおもてなしの心を大切にしたいと思います。



平成29年版
予約受付開始

献木一口
2000円
なお、一回に五口以上の献木を
いただいた方には1本進呈致します。

木製干支カレンダー中西啓寶座主 短冊付 価格 3500円

高野靈木を使用した
干支カレンダーを
作成しております。

平成28年版靈木カレンダーは、好評につき予定本数に達しました。
平成29年版の予約を開始しましたのでお早めにお申し込みください。
あらわにお願い致します。



- 1月末までの皆様から献木頂きました。総額は10,946,000円で件数は1,340件となりました。
- 奈良県立里山林150haの内10ha 約40年生(杉・桧)間伐
- 繼続事業
 - 奈良県十津川山林130haの内25ha 約47年生(杉・桧)間伐
 - 分収林3haシカによる獣害被害地へアカマツ2,000本の補植
 - 分収林4箇所31haの除間伐・4箇所21haの枝打ち(4m)
 - 寺有林60ha搬出間伐と作業道全長6km
 - 境内林整備(危険木・枯れ木・かかり木・景観樹管理・草刈り他)



以上の事業費用総額は約3千万円となっております。
最後に皆様からの献木は祖山環境の維持に大切に使わせていただいております。
今後とも引き続きご支援頂きますよう宜しくお願ひいたします。
またお山の維持管理についてご意見ご要望などございましたらぜひお聞かせください。

会報バックナンバーはこちら <http://koya-forest.jp/blog/> 山林部ブログ

検索

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行: ○九九支店 当0061758
加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
E-mail sanrinka@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。